

令和4年度大磯町補助金等評価委員会 議事録

○日時 令和4年5月26日(木) 18:30～20:00

○場所 大磯町保健センター 2階研修室

○出席者 委員5名出席

○事務局 参事兼町民課長、町民課担当職員

○傍聴者 8名

○会議記録

1. 議題

(1) 令和3年度町民活動推進補助金事業結果報告について【公開】

～質疑応答～

令和3年度報告事業ナンバー①

◆報告団体：大磯かるた会

◆事業名称：百人一首普及事業

◆事業効果、実施内容：企画提案申請書、収支予算見込書のとおり

◆補助金の交付額：75,382円

【委員】コロナ禍の中、活動お疲れさまでした。質問ですが、収支決算書で、町の補助金75,382円となっていますが、当初査定額が85,000円となっていました。これは何かありますか。

【団体】金額が少し少ないということですね。

【委員】そうです。

【団体】百人一首入門講座で講師の方をお願いしたのですが、コロナで入門講座が開催できなかったため、その方にお支払いする交通費と講師料の支払いがなくなったので、少し金額が減っております。そして、差額の9,618円が余ったので5月9日に町に返還を済ませております。

【委員】本日はありがとうございます。体験会に参加された13名は、過去に参加された方なのか、今回初めて参加された方なのかという内訳と、参加された方の感想とかアンケート等をとっていたら、どういう反響があったのか教えていただきたいです。

【団体】アンケートは取っていないのですが、いらしてくださった方は初めての方ばかりです。先ほども申し上げましたように、小学校4年生から90歳の方までいらしていただきまして、百人一首と大磯の深いつながりがあるということをおわかっていただけた事と、かなりの年齢差がありま

すので、世代を超えてみんなで仲良く楽しんだという事が私は良かったと思っています。

【委員】ありがとうございました。新しい利用者に広げられた事は良かったと思います。ただ、できればアンケートなどはとって御意見を聞くと次につながると思います。もっと、こんなことをしてくれたらよかったなども聞けると思います。小学生でも答えられると思いますので、とられるとよいと思います。

【委員】200枚もの大判かるたの作成お疲れさまでした。せっかく作られたかるたですので、末永く御活用できればいいなと思うのですが、将来的にかるた大会をいう事でしたが、それ以外にこの大判かるたを使って今後こういった活動をされて行こうと考えていますか。

【団体】大判かるたを使ってかるた大会を予定しておりますが、それが一番最初だと思います。大磯町民の方々、大判かるた会は、ほかの地域でも行っているところが多い。小田原や平塚、あと伊勢原の方でしょうか、厚木の方でしょうか。そちらの方でもやっております。そういうところを見せていただいて、皆さんがどのようにやられているのかを勉強してこれからのかるたの普及活動に役立てていきたいと思っています。

【委員】大判かるたを使って近隣の市町の方々との交流が生まれているようで、すごく夢の広がる事業だと思いました。引き続き頑張ってください。

【団体】ありがとうございます。

【委員】11月21日の参加者が13名という事でしたが、これはコロナ禍としては人数的には予定より多いのですか。

【団体】20名ほどを予定していましたが、鳴立庵は少し狭いので、人数が多くても感染が心配になります。ですので、ちょうどいい人数ではなかったかと思います。

【委員】コロナ禍でなければ、通常では20名ほどで開催されているという事でしょうか。

【団体】普通の状態でしたら、皆さん一列にならんで、例えば源平方式で取ることもできるのですが、散らし取りという取り方もあります。散らし取りというのは、皆さんがかたまるので、それはまず不可能ですので、コロナも収まってまいりましたら開催できればと思っています。

【委員】厳しい状況だとは思いますが、できるだけ多くの人に入門等、参加していただくことができるようになればと思っていますので宜しくお願

い致します。

【委員】せっかく町の補助金で作られているので、小学校の図書館とかそういうところで活用して、子どもたちに展示で見てもらえるようにしたらいいんじゃないかと思います。

【団体】この札を図書館等に展示するという事ですね。

【委員】学校の許可とか展示する場所のスペースとかはあると思いますが、図書館って色々な文化を受け入れる事がありますので。ちょっとしたコーナーを作っていただいて、そこにこれを置いてですね。多分、図書館もこういう百人一首とかの本は多少あると思うので、それを一緒にそこへ出していただいて本を借りて読むとかですね。そんなことを思いました。

#### 令和3年度報告事業ナンバー②

◆報告団体：一般社団法人 海鈴大磯

◆事業名称：「ふるさと回帰支援センター大磯」大磯移住・定住支援事業

◆事業効果、実施内容：企画提案申請書、収支予算見込書のとおり

◆補助金の交付額：250,000円

【委員】令和3年度の活動、お疲れさまでした。たくさん、行事を行っていただいた中で、3年度で新しく移住したいなとか、大磯に入ってきた人は何人いらっしゃいましたか。

【団体】私どもが具体的にフォローさせていただいたのは、先ほども説明した通り2名の方が、1名の女性の方と1家族の方が決定されました。特に、御家族の方は、1年以上大磯に来ていただきまして、地域の体験をしたり、メンバーを紹介したり、町の主催（産業観光課）が行っているイベント等を紹介して、実際参加して、要するに大磯のコミュニティを知ってもらって移住を決定してもらいました。もう1人の方は、女性なのですが、大磯町の空き家バンクに手を挙げて、東町の空き家を購入されて自分でリフォームをして住めるようにして、大磯町に定期的に来ている最中です。それ以外にも予定している人は多くいるのですが、大磯移住のフェイスブックを見てという方を何人かこれから御案内する予定です。

【委員】決定した方は2世帯ですか？

【団体】私たちが去年1年で決定した人は2名です。もう1名決定したんで

すが、これは失敗事例だと思うんですけど、福岡から移住で、住居をオンラインで探したらいいんですね、仕事は平塚の方に決まったんで、荷物と一緒に大磯に来ました。オンラインで見た物件を実際見てみると、見せていないところとかあって、彼曰く騙されたと。結局平塚に引っ越してしまっただけですね。僕らも散々お手伝いをしたんで、そこは抑えて、また会いましょうよと言ったんですけどね、行きづらいですよと言っていました。まあ、そういう方もいました。

**【委員】** ありがとうございます。県主催の移住セミナーとか国際フォーラムのふるさと回帰フェアで、各近隣の市町でも移住の取り組みがあると思うんですけど、そういう中での市町の連携というのは、お客さんの取り合いのようになるので、難しいことなんですかね。

**【団体】** 取り合いということがありますが、県が主催するイベントの場合は、移住者さんに対して、それぞれの自治体で参加して、それぞれの魅力アップです。取り合いというのは少し違うのかとは思いますが、確かに良い競争はしていると思います。

**【委員】** 県と一緒にやりましょうというようなことはありませんか。

**【団体】** いい質問いただいたんですけど、実は今年度は、二宮町と移住・定住に関するお試し移住住宅について、一緒にやっていこうという話がありまして、代表の方が変わり、一緒にやりませんかということで、可能性はあります。

**【団体】** 二宮町は積極的に移住を誘う団地再生を掲げて、団地の空き家を活用したいというお試し移住住宅を始めたんです。募集したところ沢山の人が来られ、そこに来られた方が隣の大磯が気になっているということで、何組かの方が来られて、申し訳ないんですけどこっちの方が良いと言ってくれているようなんですけどね。逆もあるかもしれません。

**【委員】** 報告書の特記事項にクラウドファンディング事業者と連携と書いてあるが、クラウドファンディングとは具体的にどのようなことをされていますか。

**【団体】** 鎌倉のエンジョイワークスさんが大磯町に来て、空き家対策移住者育成講座をやりたいということで、我々に紹介がありました。全国の空き家対策として、全国の空き家を活用して施設運営をしている投資型クラウドファンディングがあります。たまたま私の親族が住んでいたところが空き家になっていまして、そこを活用して何かできないかと、ただ

うちの空き家もそのまま使える状態ではないので、リフォーム費用をその会社に任せ、クラウドファンディングをやって貰っている最中です。

**【委員】** 今いくらくらいですか。集まっているのは。

**【団体】** 具体的に言うと目標額に対して3分の1くらいです。かなり厳しい状況です、もし、エンジョイワークスさんができなくてもできる範囲でやろうかなと思っています。

**【委員】** 令和3年度はコロナ禍2年目というところで、セミナーなどに参加する層ですとか、参加する人の意識、考え方の変化など、お気づきになったことがあれば教えてください。

**【団体】** コロナ禍での一番の変化ですけど、ふるさと回帰センターの有楽町のセンターも具体的に言っているんですが、リモートで出来る状態がありますので、これまで生活環境を変えるという人が多かったんですけど、このところ神奈川の人氣がものすごく上がりまして、東京に通えるし、しかもリモートもできるということで、移住希望者がすごく増えたということは、すごく良いことだと思います。私どもへの問い合わせがメールでも多くなってきています。

**【委員】** 実際に移住を希望されている方と触れ合って感じる事、感触を伺いたいんですが、例えば、移住先として、一番重視されていることは、どのようなことだと感じられますか？

**【団体】** 答えになっているか分からないんですが、僕らは移住支援ということボランティアとしてやっていることなので、「大磯に良い物件があったら移住します」と言う人に対しては、それは不動産屋さんに直接言ってくださいと。大磯でどういう生活をしたのか、ライフスタイルにしたいのか、大磯のコミュニティとどう関わりあいたいのかといったことを接触しながら何回も会って、紹介して、大磯に来てくれる方を積極的に移住の方向にもっていきたいと考えているところです。

**【団体】** 簡単に捕捉をさせていただきたいと思います。今代表が申し上げたように、ある程度選択をしていると言ったら語弊がありますが、コミュニケーションを含めて大磯での地域としっかりと密着していきたい。イメージをしていらっしゃる方が、先ほど御案内したような「魅力発見ツアー」に参加していらっしゃるんですね。やはり、ただ住みたいというよりも地域の中でやりがいだとか、生き甲斐だとか、暮らしを感じたい。そういう人が、私どもの企画に参加して下さっていると感じまし

た。

(2) 令和4年度町民活動推進補助金事業採択に係る審査について【公開】

～質疑応答～

令和4年度審査事業ナンバー①

- ◆申請団体：一般社団法人 海鈴大磯
- ◆事業名称：「ふるさと回帰支援センター大磯」大磯移住・定住支援事業」
- ◆事業効果、実施内容：企画提案申請書、収支予算見込書のとおり
- ◆補助金の交付額：250,000円

【委員】移住のお試しができる住居は、1つしかないということですか。

【団体】大磯で移住を目的として住める施設は今大磯にはないです。初めての試みになります。敢えてやるとすると、民泊施設の登録が4カ所あると思います、そこを利用することもできますけれど、移住を目的とした施設は今大磯には1つもないです。

【委員】リフォームのクラウドファンディングを活用して、それが出来上がるまでは1つもないということですか。

【団体】リフォームをクラウドファンディングの会社が達成できなかった場合は、私たちのぎりぎりの出来る範囲で泊まれる施設にさせたいと思います。

【委員】今年度では達成することは難しいということでしょうか。

【団体】一度家へ来ていただければ分かるんですけど、住めないことは無いんです。今でも住めます。お風呂の改造にお金がかかるんです。お風呂がなくてもシャワーで良ければ今でも泊られます。

【委員】分かりました。移住につなげるため、お試しで泊まって頂くということは支援が大変だと思いますが、上手く進めてクラウドファンディングの方で資金がたまるようにお願いします。

【団体】ほとんどのところが自治体でお試し住宅を持ってやっています。

【団体】捕捉させていただきますとクラウドファンディングが成立してリフォームした場合は、2組の方がお泊り頂ける施設になるようにリフォームするという計画です。

【委員】お試し移住施設の案件ですけれども、お金かけることも大事だと思うんですけど、人を集めてボランティア、アルバイトさんでも良いと思うんですけど、大工さんかなんかに指導して頂いて、材料費なんかはか

かと思うんですけど、ボランティアの人を動かしてやることは出来ないのかと。

**【団体】** 今後、おっしゃる通りの方式でやりたいと考えております。

**【委員】** ボランティアの話もありますが、今後の持続性・継続性といった点ところは、何か考えていることはありますか。

**【団体】** 元々25万でできる事業ではないので、海鈴（一般社団法人）の収入はありますので、移住支援事業は皆さんボランティアでやっていますので、これからもたくさんのボランティアさんを増やしてやっていきたいと思えます。

**【委員】** 今の持続性、継続性の今後の可能性といった部分は、事業計画を見ますと、移住促進セミナーの使う使用料とかを海鈴さんで負担されていますが、この町の補助金がなくなると、今の事業を全部継続していくのは難しいのではないかという印象を受けました。大磯町さんと連携されているので、将来的に町との役割分担、財源含めてどの部分を町が負担してどの部分を海鈴さんが負担してということをお話し合っていて、時間をかけてじっくり話し合った方がよいのではないかという印象を受けたんですけど、その辺の傾向はいかがでしょう。

**【団体】** おっしゃる通りですが、町も少しずつですが予算がつくようになってきて、少なくとも今年度のふるさと回帰フェアでは町で一部予算を取っていただいています。販促用のツール等の予算についても取っていただいています。今後は、さらに増額をしてくれるのではないかと期待はしています。

**【団体】** 捕捉をさせていただきます。この補助金を活用させていただいて、ホームページの開設ですとか、活動のベースになるところを今作っているところです。いろいろな活動で移住されてきた方自身がさらに移住者に魅力を発信したり、さらに私たちの活動に参加してくださっているという事でありボランティアという言葉を多用するのはどうかと思えますが、少しずつ協力者も増えてきている。そんな中でコミュニティを作りながら、ただに移住者を増やすのではなく、共通の思いを持った人々の輪を広げていく活動に繋げていければと思っています。

**【委員】** とても丁寧に活動してらっしゃるなという印象を持ちました。ありがとうございました。

令和4年度審査事業ナンバー②

- ◆申請団体：大磯古道山道つなげ隊
- ◆事業名称：大磯古道山道復活事業
- ◆事業効果、実施内容：企画提案申請書、収支予算見込書のとおり
- ◆補助金の交付額：104,550円

【委員】収支予算見込みのその他で、講習会参加費と教材費とありますが、これは整備に関するものですか。

【団体】土中環境の著者による高田宏臣先生のワークショップ等に参加する時のお金です。

【委員】なかなか着眼点が面白いのですが、予算のところでいわゆる消耗品の材木とかですね。そういうものが計上されていないようなのですが、材料費等はどのようになっていますか。

【団体】麦わら、竹炭となっていますが、この時は活動し始めてどのくらいの量かわからなくて、竹炭や麦わらは必要だという事はわかっていたので、こちらに記載させていただきました。

【委員】竹炭と麦わらは、具体的にどのように使うのですか。

【団体】斜面になっていると、道路に水が流れてしまうので、段切りと言って垂直と並行に手鋸でやっていくのですが、その時にそれが崩れないように、穴をあけて炭と落ち葉を入れて、横木と横木の間にわらを詰めていきます。その時に竹炭をかなり必要になってきまして、これではちょっと足りないです。

【委員】そうすると、舗装に使う感じでしょうか。

【団体】そうです。

【委員】事業の進め方に関してお伺いしたいのですが、基本的には会員の皆様が事業を進めていくというお話だと思いますが、研修の参加というのは、一般の方が参加すると会員になれるという事でしょうか。

【団体】ワークショップは、大磯町でも行ったのですが、私が参加できなくて講義を聞いたのですが、実施が出来なくて、できれば私も先生のやり方を自分の目で見てやりたいと思って、先生のワークショップに参加するための費用がこちらです。

【委員】基本的には、一般の方をお誘いしているわけではなくて、あくまでも会員さんだけで整備をしていく中で、町の補助金をくださいというイメージでよろしいですか。

【団体】そうです。

【委員】一般の方がここに参加することはできるのですか。そのための事業を展開していく予定があるのですか。

【団体】希望者は申し込んでいただければ入れますが、ボランティア保険に入っていただく関係で、一度試しに来ていただいてから会員になって活動するということになります。

【委員】毎週水曜日にやっていますから来てくださいという事で、一般の方を募っているような事業展開をしていくというお話ではないという事でよろしいですか。一般の方が入りやすいように家族で来れるような土日を使った催し物を開催していこうなどは、まだ考えていませんか。

【団体】山道をつなげたいという人が現れてまして、御主人とかが土日だったら参加できるという方がいらっしゃるので、そのために土日を開催することになると思いますが、目的としては、なるべく町民の方に参加してもらって山道を知ってもらうという事、山道を残す事を目的としています。

【委員】一般の方々に広く知っていただけるように事業展開をしていくというよりも、団体でやっていくので補助して下さいと言われてるように感じてしまうのが残念です。

【団体】一応 SNS で告知をして、毎回参加者の募集をしています。

【委員】わかりました。ありがとうございます。

【委員】とても興味深い活動で面白いなと思いますし、こういった活動を通じて、町民の地域に対する理解が進んでいけばよいなと思いました。気になるのは、ノコギリを使うとか、足元も相当危ないという事もあるかと思うのですが、参加者の安全確保はどのようにされていますか。もちろん、保険に入るといことはあるかと思いますが、それ以外に安全確保のための手立てです。参加する前の講習だとか、多少なりとも危険があることを伝えるなど、安全確保についてどのように対応していらっしゃいますか。

【団体】地球守のことをなさっている方がメンバーにいらっしゃいまして、作業の前にその方からやり方を教わって始めています。

【委員】その方が、参加者に教えているのですか。

【団体】という事ではないのですが、やり方を指導していただいて、そのやり方で行っています。

【委員】今、御家族とか、お子さんはしていないのですか。

【団体】今はお子さん連れは募集していません。

【委員】ケガの無い様に活動してください。

【委員】2点あるのですが、厳密にいうと、公図だけでは場所がわからなくて、測量して境界確定して赤道は町の所有だと思うのですが、隣接する所有者の方にここ整備していいですかとなるのかと思うのですが、なかなかこの事業計画ではそういった予算が無いようなのですが、具体的に隣地の方とどのように進めていくのか。あと、整備をした道は、せっかく整備したので多くの人に歩いてもらわないとまた埋もれちゃうというか。たくさんの人に歩いてもらうような仕組みも必要かとは思いますが、活用方法を教えてください。

【団体】公図を取るという事で予算は計上させていただいています。それがわかった時点で交渉については、その住所がわかった時点で、手紙と写真を送ってこういうことをしたいという事をお知らせする形を考えています。道の活用ですが、今後、道がつながりましたら、地図を作って配布もしくは販売していきたいと思っています。

【委員】長期的にどこを目指すのかという事は、ぜひ参加者や関係する方々と考えて話し合っただければと思います。

【委員】法務局の公図手数料というのは、町の補助事業だと無料になるとかはないのですか。

【委員】町が申請するのではなくて、民間の方だとお金がかかります。

以上